

今年も秋のお彼岸を迎えました。春夏秋冬と季節の移ろいは私たちに時の流れをはっきりと教えてくれます。しかし、近年は短い春を楽しんだかと思うと突然に暑い夏がやって来て、やっと涼しくなってほっとすると冬になっていたと感じる方も多いのではないのでしょうか。春と秋の季節を短く感じるのは、地球規模の気候の変化によるものともいわれます。

今年は感染症の影響で、家の中で過ごしましょうという呼び掛けを世界中の人々が耳にしています。

そんな中、外で社会的距離を取って散歩をし、他の人の服装が変わることで季節の変化を感じる事もあるでしょう。家の中で過ごす時間が増えた事で、かえって人間観察のアンテナが敏感になっているのかも知れません。

夏と冬の季節の時期が少しずれていても、暦通りにやって来るのが「お彼岸」です。お中日の秋分の日には、太陽は真東から昇り真西へ沈む、昼と夜の長さがほぼ同じになります。

「お彼岸」になったのだという、自然の理からはっきりと教えられた事実を、道元禅師は『正法眼蔵』「仏教の巻」で彼岸が到ると書いて「彼岸^{ひがんとう}到」という言葉で、お示しになりました。迷いの世界とされた私たちの世界が修行する事ができる「彼岸」であるという意味で、私たちが修行を行うことで、お悟りの世界にいるということなのです。それは日々の正しい修行を欠かしていないからこそなのであって、その心掛けを「お彼岸」になった事に気付いている今こ

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

そ、もう一度良く確かめなさい、というお示しです。

私たちはこれから半年の間、春の「お彼岸」まで、冬を経験しなければなりません。そのお蔭で春の暖かさを有り難く感じる事が出来るのです。

禅の修行道場では、夏や冬の一定期間に、安居（あんご）といって道場に籠って修行をする大切な期間があります。

社会に生きる私たちにとっても、半年ごとに我が身や生活を振り返りながら前に進んでゆく人生は、時の流れを大切にする生き方ではないでしょうか。今一度、日々の暮らしの中身を振り返ってみては如何でしょう。

「彼岸到」、彼岸が到る・・・、道元禅師が「お彼岸」になったことを教えて下さっています。

— 終 —